

日本 语言文化研究

(第十辑)

北京大学日本语言文化系 编
北京大学日本文化研究所

學苑出版社

日本 语言文化研究

(第十辑)

北京大学日本语言文化系 编
北京大学日本文化研究所

常州大学图书馆
藏书章

學苑出版社

图书在版编目 (CIP) 数据

日本语言文化研究. 第10辑 / 北京大学日本语言文化系, 北京大学日本文化研究所编. —北京: 学苑出版社, 2014. 6

ISBN 978 - 7 - 5077 - 4541 - 2

I. ①日… II. ①北…②北… III. ①日语—语言学—文集 IV. ①H36 - 53

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2014) 第 126735 号

责任编辑: 杨 雷

出版发行: 学苑出版社

社 址: 北京市丰台区南方庄2号院1号楼

邮政编码: 100079

网 址: [www. book001. com](http://www.book001.com)

电子信箱: [xueyuan@ public. bta. net. cn](mailto:xueyuan@public.bta.net.cn)

销售电话: 010 - 67675512、67678944、67601101 (邮购)

经 销: 新华书店

印 刷 厂: 北京京华虎彩印刷有限公司

开本尺寸: 880 × 1230 1/32

印 张: 10.5

字 数: 230 千字

版 次: 2014 年 7 月第 1 版

印 次: 2014 年 7 月第 1 次印刷

定 价: 35.00 元

本书的出版得到(日本)文教大学的
资助,谨致谢意。

《日本语言文化研究》编辑委员会

顾 问:孙宗光 徐昌华 潘金生 顾海根
编 委:刘金才 于荣胜 彭广陆 赵华敏
金 勋 李 强 滕 军

本辑执行主编:李奇楠

本辑特邀主编:加纳陆人

致 詞

ご在席の皆様、

本日はお忙しい中、北京大学、文教大学の日本語教育実習 20 周年を記念するためのシンポジウムにご臨席頂き、誠に有難うございます。皆様の長年に亘るご厚誼、ご支援により、日本語教育実習 20 周年を目出度く迎えることが出来ました。心から皆様に御礼を申し上げます。

二十年というのは、われわれ一個人にとって、非常に長い期間であり、私事で申し訳ありませんが、この行事が始まった年は、私は、まだ四十にも成っていませんが、二十年経った今は、もう孫を持つお年寄りになりました。しかし、社会や組織などにとって、二十年というのは、短い期間です。歴史的な意味から考えれば、おそらく、二十年というのは、ほんの一瞬間に過ぎません。この長いようで、短い二十年間に、遠藤織枝教授、加納教授を始め文教大学の諸先生のご引率で、文教大学の実習生は、二十回北京大学に来られ、日本語の教育実習を続けて来られたわけです。もし遠藤織枝教授、加納教授を始め文教大学の諸先生の御努力がなければ、文教大学側の御支持がなければ、この日本語教育実習という事業は、とても続けられません。ここにこの二十年の日本語教育実習に心血を注いでくださり、多大なご尽力を払われて来られた遠藤織枝教授、加納教授を始め文

教大学の諸先生に改めて御礼を申し上げます。

二十年は、あっという間に過ぎてしまいましたが、日本語教育実習は、大きな成果を収め、最初の参加者は六名しかなかった小規模のものから、今二十名以上の実習生が参加する大規模の実習になりましたし、教育実習を通じて、両学の学生の交流を拡大し、相互理解を促しただけではなく、北京大学の日本語教育の向上にも役立ちました。十周年の記念シンポジウムを契機に、五年ごとに本日のような両学の教師陣が参加する学術シンポジウムが開かれました。この事業により、学生の交流から教員間の交流にまで広がりました。これからも、さらに幅広くこのような交流を深めていくでしょう。二十年の間、両学の人事は随分変わりましたが、この事業は、人事の変化に影響されず、順調に続けてまいりました。ご臨席賜った皆様の御努力とご支援により、これからも、この日本語教育実習は、必ずや更なる発展ができ、実り豊かな成果を収められるであろうと確信しております。最後になりますが、今回のシンポジウムのご成功をお祈りしまして、私のご挨拶とさせていただきます。

北京大学教授 于荣勝

2011年11月

目 录

基調報告

- 日本語研究と日本語教育 趙華敏 (2)

語言篇

- 再論日語動詞的活用 彭廣陸 (22)
- マセン形からナイデス形への言語變化について
——動詞否定丁寧形の前接要素に注目して
..... 川口良 (54)
- 名詞修飾表現の構造と意味
——日本語と他言語の比較を通して 武田和恵 (71)
- 漢文訓讀與日語文體的形成 潘 鈞 (90)
- 文教大學が養成する日本語教師とは
——シドニー大學實習を中心に 三枝優子 (101)
- 埼玉県における方言の地域資源としての活用
——山形県・高知県の比較を通じて 亀田裕見 (117)
- 『新日本語言集 甲号』の一考察 黃慶法 (143)
- 民國初期報刊小說語言中的白話情況
——以《京話日報》上刊登的小說為語料
..... 山田忠司 (159)

日本語のテクレルと中国語の「让你」

——説明文における無情物が主語の場合を中心に

..... 孫 斐 (169)

文学篇

阿部知二与“主知主义文学”论 于荣胜 (190)

「銀河鉄道の夜」に登場する「鳥捕り」の解釈に関する一考察

——宮沢賢治作品における〈不殺生戒〉の問題

..... 鈴木健司 (199)

欲望するヒロインたち

——1950年の三島由紀夫文学の一側面

..... 武内佳代 (210)

『明暗』における鏡の表象について

——夏目漱石と「新ロマンチズム」 解 璞 (228)

文化篇

尊徳思想における「共生精神」について 劉金才 (252)

试论中日文化交流史的特点与分期 滕 军 (270)

山片蟠桃の自然観に関する一考察 李晓東 (286)

冲绳“閩人三十六姓”后裔的调查研究

——以社团法人久米崇圣会为中心 李凤娟 (297)

明治时期日本基督教思想界对进化论的认识

——以内村鉴三为中心 葛奇蹊 (311)

基 调 报 告

日本語研究と日本語教育

趙華敏（北京大学）

はじめに

日本語学習者にとって、勉強する時間が長くなるにつれて、自然に解消する問題がたくさんあるが、どうしても解決できない問題もある。中国語母語話者の日本語学習者にとって、このような困惑はいくつかある。その原因はどこにあるのか。それを見つけ出し、記述・解釈するのがわれわれ研究者に与えられた役目であり、そしてその研究成果を日本語教育の実際へ運用することは我々に課された大きな課題の一つだと思われる。本論文はそれらの自然に解消できない問題を記述・解釈し、解決方法のありかを探究することにする。

1. 問題提起

次の例を見よう。

例 1

①豊かな社会経験は、私に視野を広げさせ、能力を鍛えさせ、友達を作らせ、本に載っていない知識を教えてくださいました。②しかし、相当な時間と精力が取られ、私の生活が充実するようになる一方、忙しく疲れを感じさせたりしますので、勉強に悪い影響を与えてしまったりもします。③そのすべては自分の大学生生活の見直しのき

かけにならざるを得ません。

(“丰富的社会工作经历开阔了我的视野,锻炼了我的能力,让我认识了很多朋友,也学到了很多书本上学不到的知识。然而,也占用了我大量的精力和时间,让我感到生活充实的同时,也感到了忙碌和疲惫,学习也因此受到了一定的影响。这一切让我对自己的大学生活不得不重新思考了。”)

北京大学の4年生の翻訳の授業に出た例である。下の()の中の中国語の日本語訳である。非常に不自然に感じられる日本語になっている。

問題はおそらく次のようなところにあるだろう。

3つの文からなる短いテキストだが、①②③の文はそれぞれ違った主語を持っている。

特に②は「相当な時間と精力が取られ、私の生活が充実するようになる」の主語は「私」で、「一方」の内容と対比になっている「忙しく疲れを感じさせたりしますので、勉強に悪い影響を与えてしまったりもします」の主語は「社会経験」になっている。全体的にはしっくり行かない文になっている。

例2

(1) 日本自身が経験した公害および、それへの対応など、私たちの成功と失敗の経験を、中国の皆さんの参考にしていただきたいと思います。(关于日本所经历的公害及其对策等,我们愿意把成功的经验和失败的教训拿出来供中国国民参考。)^[1]

(2) 近い国同士であるからこそ、互いに何故相手は自分のことをよく分かってくれないのか、という苛立ちが生じがちです。(正因为我们是近邻,所以往往彼此因看到对方不理解自己而产生很大的焦虑。)

福田康夫元首相が2007年12月28日に中国北京大学で行われた演説にあった授受表現の6例からとった2例である。

試しに、()の中の中国語を北京大学の修士翻訳コースにいる学生(日本語学習暦5年)に日本語に訳してもらったら、次の訳文が返ってきた。

(1') 关于日本所经历的公害及其对策等, 我们愿意把成功的经验和失败的教训拿出来供中国国民参考。→日本が受けた被害及びその対策に関しては、我々は成功の経験と失敗の教訓を中国国民に参考として提供したい。

(2') 正因为我们是近邻, 所以往往彼此看到对方不理解自己而产生很大的焦虑。→我々は近隣だからこそ、お互いに理解できないことを非常に不安に感じる。

28名のうち(1')のように訳した人が16名で、3分の2に近い。(2')のように訳した人が10名で3分の1強である。授受表現は従来、中国語母語の日本語学習者にとって、難点の一つである。この数字も証拠の一つになるだろう^[8]。

授受表現に関する先行研究はたくさんあるが、中国語母語話者を対象に行われた先行研究を例示しておく。

楊秀娥、陳俊森(2005)は文法テストと語用テストを作り、日本語専攻の大学生(115人、1年生から3年生)を対象にし調査を行った。文法上では「てくれる」と「てもらう」の誤用、語用上では「てあげる」の過剰使用、「てくれる」と「てもらう」の非用を指摘した。その中に、特に化石化の問題で「てもらう」の習得がもっとも難しいと主張した。

王燕(2010)は研究の考察結果に基づいて、中国語母語話者を対象とする日本語教育に対して、次のような提言をした。

①授受表現を現代日本語を理解するキーワードとして捉え、他の表現形式とのかかわりの中で体系的に指導していかなければならない。

②次に、授受表現のような、場面依存性が強く、それゆえ特に主観的だと言える表現を指導する際には、認知言語学の知見を取り入れる必要があると指摘した。

丁偉（2011）は対照分析仮説と誤用分析の方法を通じて、日本語学習者と日本語母語話者を対象にしアンケート調査を行った。その結果は以下のようなことを明らかにした。

①恩恵としての使用範囲が違っているので、中国人学習者にとって、「てくれる」と「てもらう」類の習得はより難しい。

②中国語「給」との対応率は「てくれる」表現より、「てあげる」類表現の方が高い。したがって、「てあげる」類の多用がみられる。

③初級レベルの学習者は「てもらう」はほとんど使っていない。その原因は、補助動詞の使用を動詞の使役表現の使用と混同に認識している可能性がある。

④学習者の場合は、日本語母語話者より、人称名詞の使用率が高い。

のように、授受表現はいろいろな問題と絡んでいるので、使用に困難をもたらしている。中では、「語用上ではてあげるの過剰使用」、「『てくれる』と『てもらう』の非用」「授受表現のような、場面依存性が強く、それゆえ特に主観的だと言える表現を指導する際には、認知言語学の知見を取り入れる必要がある」などの指摘があった。しかし、なぜ非用なのか、どのように「主観的だと言える表現を指導する」かについての言及は不十分のようである。

例 3

(略) 推薦状を、やはり先生に書いていただきたいと思います
っております。

事務に聞いてみましたら、専用の書式がありましたので、一応先生に添付でお送りいたします。宛先はなくてもいいですから、先生のご所見だけを書いていただけますでしょうか。締め切りが20日なので、もしお引き受けいただければ、15日頃までにお願いできますでしょうか。お忙しい中大変申し訳ありませんが、宜しくお願い致します。

中国語母語話者が先生に出した日本語で書かれたメールである^[3]。

敬語も授受表現も使用され、日本語能力の高い学習者の談話であることがわかるが、全体としてある種の「押しつけがましさ」が感じられる談話となっていると言われている。

例 4

(1) また、この非核化の問題とともに、拉致やミサイル等の問題を解決し、不幸な過去を清算して、もって北朝鮮との関係を正常なものにしたいと考えています。(我们还希望在解决无核化问题的同时，要解决绑架和导弹的问题，清算不幸的过去，进而实现与朝鲜的关系正常化。)

(2) そこで、日中がアフリカの持続的成長を助け、貧困から救うという共通の目標に向け共に行動し、相協力することができれば、とても素晴らしいと思いますし、ぜひ実現したいと考えております。(为此，我认为如果日中两国能够携手开展帮助非洲持续发展、救助贫困的合作的话，那将是很有意义的事情。我希望，一定能够实现这一合作。)

ここの例も2007年福田康夫元首相が北京大学で行われた同講演からとったものである。ちなみに、2008年温家宝元首相は日本の国会で中日関係について演説を行ったが、両首相の演説に出てくる「たい」が入る用例数は次のようになっている。日本語より、中国語のこのような公演の中での使用は極端に少ないことがわかる。

	「～たいと思う」の類	「～たいと考える」の類
福田康夫	11	8
温家宝	3	0

上の2例の中にある「～たいと考えている」はいずれも“我（我们）希望……”と訳されている。

以上の例1～例4のような中日の表現の相違が生じる原因はどこにあるのか。本研究では「事態把握」の立場から説明してみたい。

2. 事態把握の立場からのアプローチ

2.1 事態の捉え方

認知言語学の基本的な概念の一つに「事態把握」（construal 解釈/捉え方）というのがある。つまり、同じ事柄でも、「把握事態をどう解釈したか」によって、ものの言い方が違ってくるのである。

解釈の異同は言語形式をはじめ、いろいろなところに反映され、たとえ同一の状況であっても、解釈が違えば言語形式も違うし、物事に対する認識もちがってくるのである。

『認知言語学キーワード』(P. 20) の例を示しておく。

- a. John opened the door with this key. (ジョンはこの鍵でドアを開けた。)
- b. This key opened the door. (この鍵がドアを開けた。/
この鍵で試したらドアが開いた。)
- c. The door opened. (ドアが開いた。)

この3つの文の中でもととの「動作主John」「道具This key」「非動作主The door」は捉え方によって、どれも動作主になりうるわけである。「これが解釈に基づく認知言語学的な意味分析であって、伝統的な格文法における意味役割の扱いと異なるところである。」

つまり、同じ事態でも捉え方が違えば、表現形式もちがってくる。

2.2 「客観的把握」と「主観的把握」が言語使用に対する影響

この事態の把握に関しては、言語類型論的な立場から、よく英語は「客観的把握」型の言語で、日本語は「主観的把握」型の言語であり、中国語は中間的なところにあるといわれている。

「客観的把握」型の言語では、話者が離れたところで事態を観察し、把握するのに対して、「主観的把握」型の言語では、話者が自分のことを事態に中に投入して把握する、つまり「私」は言語化されないのが普通である。

おそらくどの言語も絶対にそのどれかと言えないだろうが、筆者は「より客観的」と「より主観的」と言いたい。中国語は「より客観的」のほうに属されるだろう。

図示すれば、次のようになる。



図1 「客観的把握」

図でわかるように、話者は四角の枠で代表される事態の外に立って、事態について語る。事態の中に話者が出れば、あたかも他人のように話者とその事柄を語る。

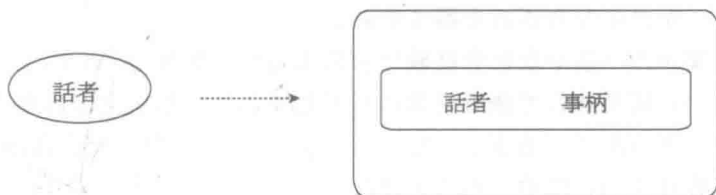


図2 「主観的把握」

こちらの図では、話者が四角の枠で代表される事態について語るとき、自分を事態の中に投入して、事態の中の一人物としてその事柄を語る、ということになる。

3. 事態把握の立場からの解釈

この節では図1、2で示されたように1で挙げた例を分析してみる。

3.1 例1について

例1は「客観的把握」による解釈で、話者自身のことであるが、あたかも他人事のように、「豊かな社会経験」が話者